昭和二十五年（1950）定價一部賣一圓二十五錢　磐城毎日新聞　五月三十一日（水曜日）　第8号（日刊）

福島縣平市南町（平局區内）六六
發行所　磐城毎日新聞社
株式會社
編集兼印刷人　藤孝倫
發行人　遠藤
（電話架設申請中）

讀愛御
下さい

平市の臺所も火の車
滯納整理は強引に斷行

金詰りと稅政改正法案參議院否決のあをりを喰つた爲め政府は勿論、地方市町村も新年度課稅に屯挫を來して居る、今度の稅法改正内容は市町村民稅と個人資產稅が課稅範圍の九十一パーセントを占め居るもので、これが法案通過してゐない結果、新年度課稅事務は迷ひ狀態に各町村も玆もと四苦八苦の遺り繰りであるこれに對し政府は八月一日までに臨時議會に無修正で再提出法案を通過させる方針であるそれまで如何に台所を運營するか流石の大平市も痛み拔てゐる、喰ひつなぎにはどうしても燒き付いた稅の取り立てに主力をそゝがねば市財政の破たんを招くと稅務課員は毎日市内に出動してゐる、だが燒け付いた滯納金であるからなかなか思う樣には回收もならず六百万円の未納額に對し毎日二万円位の現收では燒石に水だ切つぱつまつた案中のところ最近特に侵水阿部助役さんもこれではお甚しく危險な狀態にあり早鍋さんぢやあるまいし、こ急防波の必要が必至であり げ付きばかり喰べてもゐら青木村長等は各關係當局いれぬので縣納金額は交付金施工申請中のところ、本日や補助金で相殺と云う非常出縣早急海岸防波堤建設方の建設は部落民が再參陳情手段に訴えるより方針がないと語つて居り滯納整理は一段と拍車をかけることになつたがそれにしても高額滯納者は資力があるので一定の期間さい猶余すれば回收出來るそれと反對に庶民層のコゲ付きだけは無い袖は振れぬで何時になつたら整理が出來るか玆許頭の惱しところである

高校增築案起る

平商業高等學校增築案に就ては關係間で種々協議の結果、總工費百六十一万円、内縣費負擔八十一万円、地元負擔八十万円と見て市へ要求することになつた

藤間川の防波堤
施工陳情に出縣

夏井川河口附近一帶の藤間海岸地帶は常時海水の侵水によりこれが被害は四年間で水田百四十八町歩、畑三十三町歩、宅地五千坪、戶數三十二戶で特に水田―畑等の侵水は同部落（百三十戶）に對しては致命的なものであり、防波堤の建設は部落民が再參陳情を情陳する

理數科講習會
講師は各大敎授

六月五、六日の両日郡山市立芳山小學校で十時より三時迄理數科の講習會が行はれるが、講師と演題は次の通りである

◉第一日　日本に於ける社會科と化學敎育―東大敎授太田堯氏

二、算數科の單元學習―東京高師附屬高校敎官、指導要領改訂委員―松岡元久氏

◉第二日　科學の進歩と科學敎育―東京敎育大學敎授藤岡由夫氏

これは縣理科敎育研究會の共催で後援は敎育委員會事務局會費五十円で多數參加を希望してゐる

横山氏移轉解決

平市の三十米道路工事の問題となつてゐる横山氏家屋は既に移轉の準備もつき早晩決されるも大谷氏方は移轉敷地と費用等に難點があるので期間付條件では實現されぬ模樣である

選擧ビラ貼付無料

參議院議員選擧關係ビラポスター等の電柱貼付は有料東北配電會社の許可を得てゐたが此の程配電會社では參議院選擧に協力する意味で今後參議院選擧關係ビラに限り無料で貼付を許可することになつた、たゞし貼付使用の場合は一應營業所に届出で選擧終了後は速かに取りのぞくこと

社說
豫防醫學の徹底

各地に傳染病が發生してゐるので關係當時者もこれが撲滅を期する爲めに万全の策を講じ、その災害を最少限度に止めんと努力してゐる、今年は雨季を控えて地方民は早くも憂慮するところである今日の醫學は治療醫學から豫防醫學と變つて來てゐる、所謂病氣を治すのでなく、病氣は必ず發生するもの、その發した時に治療するのでは既に遲く、發生する事前にこれを防ぐ豫防醫學へと移行してゐるそれには体位の向上と衣食住と云つた生活環境の改善な樂屋話が地方民の耳に入樂品應用の積極的な手段をることは患者の不安を募る強行することが第一で、さばかりである、最近では双うした面に特段の進歩を見葉地方のプタコレラ發生にてゐることは國民の生活に際して豫防注射の料金がまも安心が出來るし喜ぶべきもまちとなつてゐるし、一の醫學の向上である回百二十円は冷細農家の副これ程重要な醫樂品が國民業には余りにも負擔が重すの手に果して適正な價格でぎると云はれてゐる、藥液收引されてゐるのであらうの價値は兎も角、人間の注か、昨年のことであつた或射より高率なのは理解し難る藥品を市町村學校に縣衛いと云う理由なのである、生課を利用して縣下に賣捌此の点當局者も充分檢討しえたものだつた、その効果てゐること　はどうであつたか知る由もきであらうし、國家的事業ないが其後この推薦狀は課長の不在中に賣藥外務員が課内の知已を利用したもの徹底的効果をあげることが必要である

文化に密接關係ある
河北敬一氏

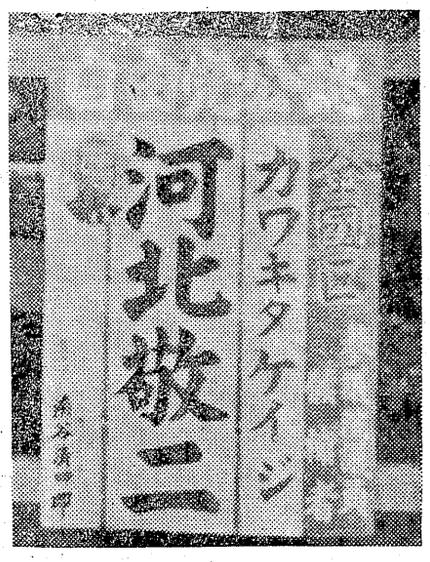
四日の投票日を間近かに控えての參議員選擧は一時低調だつた熱もようやく上昇云え文化とは切つても切れ人とはなからうに此の紙は神に通ずる最大緣故者たる氏の政策の一端をご披露に及ぼう

先づ特別に檢討すべきことは紙業の振興と統制の全廢である、世を擧げて戰爭當時統制の紙不足は殆んと禁止同樣の時代に世間では一冊の新刊書籍も出版されず事業界は用紙の入手が出來ず記帳に事欠いたが今日尙ほかつ自由紙の使用とまで行かずに統制のあることは民主國家の進運をどれだけ禁足してゐるかゞ計り知れないのであるこれを氏は極力解除に努力すると其の政策中に織込んでゐる点など意を强ふするではないか、這般氏の筆になる「青年男女諸君に訴う」の本を出版されたその書中に「青年諸君、この敗戰の暗い社會を正義にもゆる青年の情熱で明るく照らして明るく生きようではないか、而して命終る時一生を顧みてはぢなく、悔なく、朗かに死のうではないか」と筆を納めたあたら片田舎の一貧農の子悴として生れ現在東京で紙業界や民主事業に活躍して居る氏が敗戰日本の現實を坐視するに忍びずして起ち上らんとする政治えの情熱であらう、現職は

紙販連委員長、財團法人觀光映畫社理事、民生館理事、自由黨政務調査會參與

六月二日午後七時二十分からラジオ放送があり

中小企業の保護育成、農村文化の振興を信條とするなどを語るであらう



青色申告ノ切る

過般のシャプ勸告に基いて青色申告制を用ひ所得額の二百十二法人二百九となつて居る

月末現在の届出者數は個人が、平稅務署管内に於ても本三十一日を以て其の届出を締切ることになつた、四

夏井、豊間、高久の各學校

九―十日　平五小、平第二高、三坂、澤渡、永戸、永井、箕輪の各學校

七―八日　平四小、平六中平工、大浦、四倉、大野

四―五日　平三小、平三中平商、内郷、好間、赤井川前、小川の各學校

二―三日　平一小、平一中磐高、植田、錦、川部、田人、入遠野、上遠野、勿來の各學校

一―二日　平二小、平二中磐女、泉、渡邊、小名濱江名、鹿島、磐城、湯本の各學校

分村町議會招集
部落民の熱意議員認む

小島部落の平市合併促進同盟では部落民の署名完了との旨共に、内郷町會議員を各戶に訪問、實情を披歷し了解を求めてゐたが議員の個人的立場からは事情を了とするところが覺れるに至り收引などは見上げたものである、組合員約七十名近くが佐川さんのやり方を見習つての後續部隊たるの觀がある

徹頭徹尾營業本意の佐川さん統制時代には生んは今や富も出來人物も円魚の輸送は箱詰熟して出身地の神谷郷友會として價格に重では幹部となり將來は市會益々强くシャクに障つたように降りつゝいた

學校敎科書展示
平二小へ生徒見學

終戰後數多くの敎科書が國内に氾乱してゐるがこれらの敎科書の展示會が一日より十日迄平第二小學校講堂で石城郡下小中高生徒に閲覽させる、その日割は次の通り

人生放送記
平桶工組合長
佐川末造さん

福島縣桶工業協同組合濱通新鮮滿點の魚でなければ賣支部長でもあり平桶工組合れないご時世ともなれば濱長でもある平市十五丁目佐は桶の氷詰の魚でないと輸川末造さんは立志傳中の人送先で相手にしてくれず、でもある、自分の營業以外には決して手出しもせずに云はゞ一心不乱に稼業大事に働いて來た處に今日の成切を見たのでもあらう

業務の熟心さは先の見通しが付いて業界では先手先手と事業の先端を同業者よりは一歩も二歩も前進しての取引などは見上げたものである、組合員約七十名近くが佐川さんのやり方を見習つての後續部隊たるの觀がある

徹頭徹尾營業本意の佐川さん統制時代には生んは今や富も出來人物も円魚の輸送は箱詰熟して出身地の神谷郷友會として價格に重では幹部となり將來は市會益々强くシャクに障つたように降りつゝいた

後のあなたは

ふご身分ともなつたのである

一方又生活必需品たる醬油や味噌さては酒桶など絶對必要な製品を注文往來素的なものである

過般のシャプ勸告に基いて

其の一……立會演說會のスタートがうまくなかつたせいかうつとうしいお天氣に左右されてか各候補汗を流しての熱辯にもかゝわらず野次が物凄く、マイクの聲もとぎれ〳〵、「やめろ」「ひつこめ」は反對黨「うるさい」「靜かに聞け」は支持黨と、肝心の候補者はそちのけで立錐の余地なきまでにつめかけた、聽衆側が二派に分れて選擧戰、野次戰振り

政見演說を聞く會やら、野次を聞く會やらトンと分らないような風景を展開

其の二……「いやいや立會演說は面白いね」「演說より野次が痛快だつたよ」「こんなに場外まで溢れる程の人なんたから公會堂でやればよかつたのに」公會堂は市の中央でもあり、土足で入れるし世話はないのに」「まわりの道は惡いしおまけに眞暗、何故會場をわざわざこんな不便な處にしたのだろう、こんな時に活用するのが公會堂じやないか」とは演說終了後歸つて行く人々から異口同音に發せられた疑問符であつた、雨は

祝
磐城毎日
發刊
和洋紙　事務用紙
學用紙　果實包裝紙・果實袋
福島市柳町五七　株式會社　三和紙店　電話　二一六番　四七二番

鰹盛漁期に當面

餌不足で七濱漁船足踏

愈々カツヲ漁も本格的なシーズンを迎えたが石城七濱ではカツヲ漁に不可缺の餌貫の鰯が極度に不足し神奈川縣や遠く三重縣迄買出しに行かねばならぬ有様で値段も一様に千円から千五百円のヤケ相場で、一航かい三百バイ準備するとしても四十万円位の餌代がかゝり、それに重油代十万乘組員平均五十五名として食費その他合計するとどうしても一航かい七十万の經費がかさむので船主も現在の三四千貫では採算がとれず、一貫目少くとも二百円として五千貫はとれないと算盤弾けない勘定である現在カツヲ漁許可船百トン平均、二百馬力は江名濱、小名濱で四十隻、四ツ倉に三隻であるその様な理由で出漁する船の出足がにぶり行悩みの狀態にある

豪雨の被害判明

過日の豪雨に依る平市内の被害調査が此の程まとまつた其の主なるものは中平窪下平窪の一部二三作地帶の麥馬鈴薯の冠水六町歩飯野地區上荒川砂屋戸地内のせき及び堤防の決潰（巾三間半長サ一間半）で案外被害は少なかつた尚直ちに開拓事務所では現地調査を行ない農林省に決潰地修理の爲めの豫算申請を行なふことになつた

生活困窮者衣品配給

平市役所では此の程縣より割當を受けた生活困窮者用衣料品夏ジハン、幼兒服、毛布外十九種二千九百六十一点が入つたので舊市内及び飯野の生活保護法適用者一千五百六十二名に對して一人二点以内で無償配給する要領は左の通り一日（一日限り）午前九時より午後三時まで公會堂日本間印鑑と配給券は忘れずに持參すること

教員仮免許認定講習會

六月五日より二十四日迄平第一小學校に於いて二級假免許認定講習會を縣教育委員會と縣綜合大學校共催で開く、受講者は一日十時より地方事務所で開かれる選定委員會で決定するが中學校三十七名、小學校百名、高等學校若干名で詮衡要領は次の通り

一、高校實習教員

入植希望者增加

四十戸近く現地へ

石城地方事務所では去る五月初旬迄に開拓入植希望申請のあつた大野村五名永戸箕輪村三十五名に對する入植詮衡を現地に出張して三十日大野三十一日永戸箕輪の順で行なふことになつた尚此の二村現在迄の入植者は大野三十一戸永戸箕輪十八戸なつて居る

坂本文枝さん電話競技優秀

先般仙台で行われた東北電氣通信管内競技大會で市内用語調の分で見事擘の女王の榮冠を勝ち得た平電話局交換手坂本文枝（二〇）さんは此の程第二回全國電話競技會が來る十日に開かれるので參加することになつた

夏の服裝發表

久美會盛況極む

一昨二十八日九時より鯨岡洋裁園「久美會」では民報ホールで盛夏服裝發表會を催した、これは生徒が主体となり製作された四十三点の服を出品したもので會場は入場者多數で滿員の盛況で約二百名の乙女達が押しかけた

（寫眞は右より石川美子さん、佐藤町子さん佐藤節子さん、佐竹正子さん、伊藤公子さん藤居時子さんのモデル）

珠算能力試驗

珠算能力檢定試驗は六月二十五日平商高校で行う、試驗課目は一、二級見取算、乘算、除算、傳票算、見取暗算、三級見取算、乘算、除算、傳票算、四—六級見取乘算で參加資格は制限なし、受驗料は一級九十円、二級八十円、三級七十円、四—六級四十円、申込所は平商工會議所で受付、シメ切は六日、詳細は平商工會議所に照會すること

通信開局記念

電氣通信局設置一週年を迎えるので一日から十日まで開設記念旬間を設けることになつた平電氣通信管理所では之にちなみ一日から施設を一般に公開を行い電氣通信事業えの市民の理解を深めることになつた

七万圓スラる

東京都世田ケ谷區深澤町二丁目五八三共工業株式會社取締役來生鐵彌（四九）は三十日午前七時—九時の間上野驛列車の中で假眠中背廣上衣胸中ポケットに入れてゐた現金七万円入りの黑革製財布をスラレ平公安室に届出た、スラれた場所は原町平間である

專大松重監督

平商校で招聘

專修大學野球部松重義生監督は廿八日平商後援會の招會を開催した、また常磐炭平市鍛冶町川和均子さんの聘により來平四日までコーチにあたつてゐるが東北野球選手に就て一般に東北地方の野球チーム、選手は强いのが居ないこれは冬期が長く練習に缺けてゐるからと良きプレーヤーが出す隨つてコーチしてもらへない事に原因する、質贅の良い東北健兒は多多あるが技術の面で少し劣つてゐるこれは練習と本人次第でどうにでもなると語つた亦平商野球部をコーチして部員全体に闘志力がなく隨つてピンチた切りぬける力を全然ない、それから投手力が足らないのと打撃に力を注ぐ一方精神力を養成して良きプレーヤーとしたいそれには一に練習、二に練習でプロ野球の華かな面にあこがれ苦勞を買つて苦勞して欲しい

三、四日と常磐野球部と專つてゐる修大學が試合する爲部員が來郡するその時迄にぐつと見違へる様な立派な野球部員を養成したいと指導に當つてゐる

隅田川炭礦スト

常磐勞組資金送る

去る二十二日會社側で要求した標準作業量引上げ反對一月以降の坑内四百四十五円、坑外二百六十円、家族手當五百円の賃金値上げを要求してゲラれ無期限ストに突入した石城郡好間村隅田川炭礦勞組では十日目を迎え愈々斗爭も第二陣に入つたが昨三十日長期ストに備える爲め總けつ起大爭に備える爲め總けつ起大會を開催した、また常磐炭礦勞組では全面的に無期ストを支持し一人十円づつ資金カンパを組合員から募りまとまり次第逐次これを隅田川炭礦勞組におくり勵ますことになつてゐる、尚出炭減は一日約二十屯で九日間に九百噸の損害にのぼるのである

地方稀の葬儀

磐女高二年　中野秀子

今日も又荒れている、霧の様なしぶきをもうもうとまきおこしてまつさかに落ちる瀧の音の様な又大小さまざまの機械思議なものであらう、美しく、それでいて恐しいものは海である、永遠に變らぬ様で刻々と變化している私にとつて海ほど不思議なものはない考えれば考えるほどもつれた糸はきつくなる

人事ニュース

△郡山地方專賣局平出張所長本多貢氏二十五年度煙草販賣割當會議に出席のため郡山へ出張、同日歸廳の豫定

△老海澤醫師は同局平出張所員の身体檢査の爲昨三十日來平、一日退平の豫定

△石城郡農業團体事務所佐藤日出丸、五木田薫芳、賀次男、赤津甚吾、坂本喜平永山定の六氏は本日縣農業會館に於て開催される第二回連合會總會出席の爲出福、同日歸廳の豫定

△三十一日東北配電平營業所長大内善藏氏は事務打合に福島支店い出張、三十一日歸平の豫定

△平驛運轉係姥具力一氏は水宮線東舘驛長に榮轉來る五日赴任する

△平商工會議所常務伊藤秀吉氏は事務連絡會議出席のため二十九日福島へ出張中本日歸平する

△今泉嘉藏氏福島市柳町株式會社三和紙店社長は來平三日間滯在して各方面の紙業關係を調査した

官衙學校職員錄（其の七）

農林省福島統計調査平出張所

所長農林技官川口庄藏
同　志賀敏夫
農林事務官　阿部誠
農林技官　鈴木信一
同　大津芳昭
同　石川昇
同　谷良子
同　植田出張所
同　小名濱出張所
所長農林技官佐川濟
同　志田正夫
同　佐川和平
同　石井達三
同　岸田榮子
同　永井敏晴
同　齊藤政
同　多田彌太郎
同　柳井秀
同　和賀久子
同　山崎千枝子
同　木下正守
同　八卷キヨ子
同　清水ヤスノ
同　片倉スミ子
同　石井芳雄
同　志賀光
同　大野廣三
同　西牧喜子
同　山田和子
同　小出京子
同　岡部時夫
同　鈴木文吾
同　金成美惠子
同　丹野キサ子
同　井坂昭子
同　清水ユキエ
同　渡邊正
同　二瓶將吉
同　小川マス子
同　吉田悅子
同　田村修
同　那須とし子
同　柴野邦茂
同　荒木正子
同　川井武夫
同　安澤和夫
同　下妻チエ
同　八卷一
同　鈴木道子
同　齋藤トシ子
同　鈴木高麗雄
同　多田彌太郎
同　矢吹功
同　鈴木和子
同　田家政義
同　庄司德雄
同　管野一郎
同　間官喜久雄
同　折笠惠美子
同　栗田稔
同　鈴木幸四郎
同　渡瀬恭行
同　五十嵐代江子
同　猪狩清春
同　渡邊薫
同　小川良昭
同　高橋岩男
同　曳地忠道
同　川島美智
同　宮内利信
同　堀

農林技官

農林事務官

農林技官

人事課長

給與係長

文書係長

用度係長

炭政部長

同課長

炭政保

管理係長

經理係長

勞務課長

調整係長

勞務課

統計課長

企畫編集係長

生産統計係長

需給統計係長

勞務統計係長

資材統計係長

平石炭局

齊藤政
同　多田彌太郎
同　柳井秀
同　和賀久子
同　山崎千枝子
同　木下正守
同　八卷キヨ子
同　清水ヤスノ
同　片倉スミ子
同　石井芳雄
同　志賀光
同　大野廣三
同　西牧喜子
同　山田和子
同　小出京子
同　岡部時夫
同　鈴木文吾
同　金成美惠子
同　丹野キサ子
同　井坂昭子
同　清水ユキエ
同　渡邊正
同　二瓶將吉
同　小川マス子
同　吉田悅子
同　田村修
同　那須とし子
同　柴野邦茂
同　荒木正子
同　川井武夫
同　安澤和夫
同　下妻チエ
同　八卷一
同　鈴木道子
同　齋藤トシ子
同　鈴木高麗雄
同　多田彌太郎
同　矢吹功
同　鈴木和子
同　田家政義
同　庄司德雄
同　管野一郎
同　間官喜久雄
同　折笠惠美子
同　栗田稔
同　鈴木幸四郎
同　渡瀬恭行
同　五十嵐代江子
同　猪狩清春
同　渡邊薫
同　小川良昭
同　高橋岩男
同　曳地忠道
同　川島美智
同　宮内利信
同　堀

主計係長

物資係長

經理係長

勞務課

總務課長

總務係

齊藤
同　多田彌太郎
同　柳井秀
同　和賀久子
同　山崎千枝子
同　木下正守
同　八卷キヨ子
同　清水ヤスノ
同　片倉スミ子
同　石井芳雄
同　志賀光
同　大野廣三
同　西牧喜子
同　山田和子
同　小出京子
同　岡部時夫
同　鈴木文吾
同　金成美惠子
同　丹野キサ子
同　井坂昭子
同　清水ユキエ
同　渡邊正
同　二瓶將吉
同　小川マス子
同　吉田悅子
同　田村修
同　那須とし子
同　柴野邦茂
同　荒木正子
同　川井武夫
同　安澤和夫
同　下妻チエ
同　八卷一
同　鈴木道子
同　齋藤トシ子
同　鈴木高麗雄
同　多田彌太郎
同　矢吹功
同　鈴木和子
同　田家政義
同　庄司德雄
同　管野一郎
同　間官喜久雄
同　折笠惠美子
同　栗田稔
同　鈴木幸四郎
同　渡瀬恭行
同　五十嵐代江子
同　猪狩清春
同　渡邊薫
同　小川良昭
同　高橋岩男
同　曳地忠道
同　川島美智
同　宮内利信
同　堀

企畫編集係長

生産統計係長

需給統計係長

勞務統計係長

資材統計係長

小野重信
大島信男
吉江忠夫
佐藤忠一
鹽井上ツヤ子
マサヨ
岡崎重子
鈴木志郎
大内與吾郎
渡邊ヒロ子
佐藤正子
佐藤忠一
篠原ユキ子
橋本ミヨ
新妻和子
齋藤聽子
古川通
小金森美代
松木京子
中野悅子
齊藤昭子

海

磐女高二年　中野秀子

—時々ど……というものすごい音が入りまじる、こゝへ移つてきてもう六年、六年の間毎日毎日かゝすことなくこの海鳴りと共に起き海鳴りを聞きながら眠りについてきたのである、最初の頃はうるさく眠りをさまたげたこの音も今ではもう全然氣にもならない程私の生活にとけ込んでしまつたしかし海とはなんという不思議なものであらう、美しくそれでいて恐しいものは海である、永遠に變らぬ様で刻々と變化している私にとつて海ほど不思議なものはない考えれば考えるほどもつれた糸はきつくなる

編方室

寸評

づれる瞬間の音であろうか—なぜ……だまつて青い海をみつめているとあとから清水の様に疑問がわき起る、答えを得ることよりもそれを考えている瞬間が私にとつてはもつとも楽しいことなの　ある、今はまだ私達にとつてそれほど必要な存在ではない海が一抹のものさびしさを感じさせる、名月として知られている秋の月に照らされてこまかく動いている波の上一面が、まるで銀の粉でもふりまいた様にきらきらとひかりくゞれる波の下より夜光虫が右に左にぶつかり合う、何事かを深く考えている色といおうか、秋の海の色は底しれない深い鋭い

ばかりである、どうして……も次第に冷たくなつていくむぎわら帽子のかげも消えて燈台の燈がすつきりとかい面を横ぎる頃になるとうみは夏の活潑な健康色から知的な、もの靜かなうつくしい表情に變つていく、かい岸通りの裝飾燈だけが賑やかさの後の名殘りとして一抹のものさびしさを感じさせる、名月として知られている秋の月に照らされてこまかく動いている波の上一面が、まるで銀の粉でもふりまいた様にきらきらとひかりくゞれる波の下より夜光虫が右に左にぶつかり合う、何事かを深く考えている色といおうか、秋の海の色は底しれない深い鋭いそれでいて美しさを忘れてはいない神秘さをもつている、お彼岸、遠足、運動會お月見と行事の多い秋の日はしだいに短くなり夜の長い季節がやつてくるいつの間にか冷靜さを失つてしまつた海は冬の風に誘はれて次第に强暴な性質に變つていく、これがあの靜かだつた海かしら？と疑いたくなる程はげしい北風といつしよになつて氣狂いの様におどり又わめく、眞暗な底知れぬ色は何物をも一のみにするぜと私達をおびやかす

（以下次號）

出生

—三十日届出—

△十日平市字立町九六根本市三（長女）正子さん△十八日平市字長橋町六三鈴木勝衛（長男）一郎さを△二十四日平市字番匠町十九大河原丑男長（女）幸枝さん

婚姻

二十三日平市字番匠町十九高橋英子さんと茨城縣久ジ郡黑澤村大河原男さん

故慈光院殿室妙順清淨大姉の告別式に際しては御多用中にも拘はらず遠路態々御參列御焼香を賜り尚過分の御香料を拜受仕り深謝奉ります

早速參上御禮申上ぐべきの處畧儀乍ら紙上を以て御挨拶申上げます

昭和二十五年五月三十日

喪主　川和宣宏
施主　川和德一
葬儀委員長　蓮沼龍輔

健康保険指定診療所
皮膚科
性病科
内科
平市縣社下
矢吹醫院
電話一一九三・一二九五番

健康保険指定診療所
呼吸器科
胃腸科
小兒科
平市古鍛冶町（縣社下）
後藤醫院
電話一〇三六番